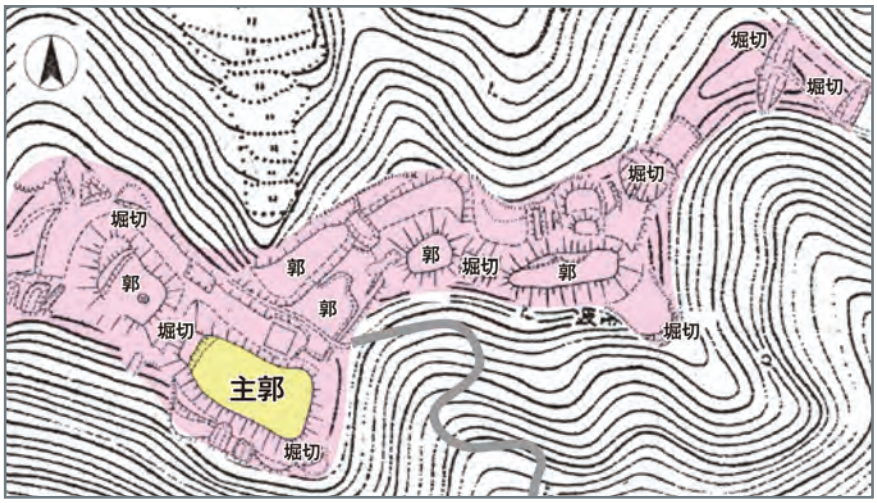
92 歴史散歩 波瀬城跡

県道43号を、ＪＲ井関駅から波瀬川沿いに美杉地域を目指して進むと、右手に東西に横たわる丘陵が見えてきます。この丘陵の、標高１５０～１６０ｍの尾根上に、波瀬城跡があります。丘陵の麓から徒歩で10分程、急な斜面のつづら折れの道を登ると城跡へ行くことができます。麓からの高さは約80ｍで、そこからの眺望は西に矢頭山、北に白山町川口の白山比咩神社、東に一志町井関・小山地区を望むことができます。

南から見た波瀬城跡の遠景



波瀬城跡実測図（伊勢中世史研究会「伊勢の中勢」第32号に一部加筆）

波瀬城は、北畠氏の一族である木造雅俊が応永元（１３９４）年に築城し、その子孫の木造雅通・康親親子が織田信長に滅ぼされる天正５（１５７７）年まで存在していたといわれています。城は、折れ曲がって伸びる尾根上に東西約１９０ｍ×南北約１１０ｍの大きさに造られ、城の西の最高部に最も大きな郭（主郭）がありました。その周囲には郭や堀切が連続して設けられ、守りの堅い構造になっています。北畠氏は、多気から一志地域の平野部へ至る道として、「多気―桜峠―下之川―矢頭峠―波瀬―一志平野部」というルートに早くから注目し、戦略・物流の要衝であるこの地に城を造ったと考えられています。

周辺には、同じく北畠一族が造ったといわれる出丸城のほか、上出城などの城跡もあります。北畠氏の史跡をめぐって、当時の波瀬地区に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

（「広報津」平成26年1月16日号）